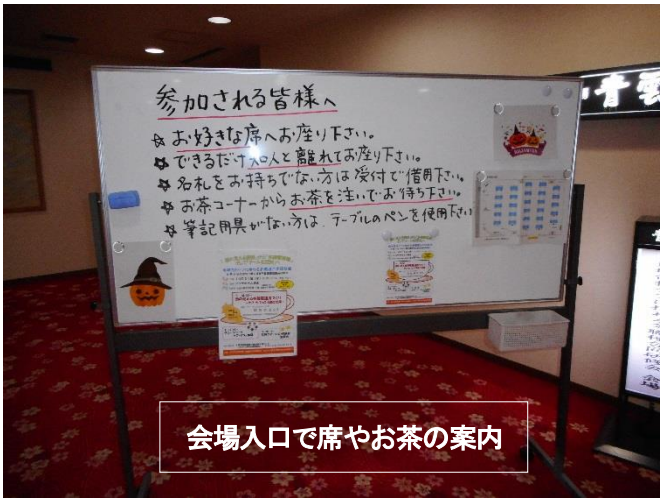
地域包括ケアに携わる多職種合同研修会の開催報告

～　「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ　～

・日　時　平成３０年１０月３１日（水）１８：００～２１：３０
・場　所　プラザホテル板倉　研修会：２階 青雲の間　　交流会：１階　有明の間
・主　催　北空知地域医療介護確保推進協議会　　北空知介護支援専門員連絡協議会
・参加者　研修会：１２１名　　交流会：４６名
（市町別：深川市９６名、妹背牛町５名、秩父別町２名、北竜町９名、沼田町５名、その他４名）
（職種別：看護職３９名、介護支援専門員２５名、保健師１０名、ヘルパー１０名、
MSW・SW・相談員９名、事務職７名、リハビリ職６名、医師５名、薬剤師３名、
歯科医師２名、管理栄養士１名、精神保健福祉士１名、歯科衛生士１名、その他２名）

・目　的　北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に関わる多職種の関係職員が一堂に会し、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係づくりを構築するための研修機会とする。



会場入口で席やお茶の案内

カフェ風に机をレイアウト

参加者が続々集まり121名に

会場いっぱいの参加者
お茶もセルフで、相互扶助がポイントです。

・いつもの研修会とは異なり、席はお好きな席、かつ知人とは異なる席に座ってください、とのアナウンスで、ウロウロとなかなか決まりません。
・整然と並べていただいたテーブルでしたが、カフェ風に配置を手直し、ＢＧＭや茶菓子も用意し雰囲気づくり。この日はハロウィン、お菓子皿などいたるところにハロウィンカボチャで装飾。

総合司会は事業担当小部会長の桑原さん

有意義な研修をと開会挨拶する新居センター長

ケア･カフェについて講演する阿部泰之先生

・今年度の多職種合同研修会は、研修会担当小部会長の桑原さん（多職種連携・地域啓発部会副部会長）の総合司会で始まりました。
・開会にあたり、北空知地域医療介護連携支援センターの新居センター長（市立病院副院長）が「有意義な研修会になるよう期待する」と挨拶。
・研修会の講師は、ケア・カフェジャパン代表の阿部泰之先生（旭川医科大学病院医師）と、ケア・カフェあさひかわの白鳥洋平さんです。

顔の見える多職種連携づくり
ケア・カフェ®の活動と効果

旭川医科大学病院 緩和ケア診療部
阿部　泰之

背景１

・地域包括ケア：医療と介護、居住に関わる施策が連携すること
厚生労働省 第５期介護保険事業計画指針

・医療職と介護職の間に心理的隔たりがある
坪井桂子. 岡山大学保健学科紀要 2005
井上千津子. 老年社会科学 2006

・地域の多職種との連携に困難感を感じている
長内さゆり. J Jpn Health Sci 2011
原田小夜. 精リハ誌 2013

・講演では、阿部先生から医療者・介護者・福祉者の顔の見える関係を築く手法として「ケア・カフェ」を開発した経緯と効果などをお話しいただきました。
・ケア・カフェの開発に至った地域連携の背景や課題を整理し、その手法と効用を研究者として検証した内容も示され、現在４０都道府県１６５カ所以上で開催されているとの紹介がありました。
・また、ケア・カフェはどこでも誰でも開催できる（講師は保育園の保護者会でも実施）が、守ってほしいコンセプトや進め方があること、さらには長続きのコツなど運営方法のアドバイスがあり、運営マニュアルはＨＰで提供していると、北空知での開催・導入を期待されました。

・従来の講演会などの集まりでは、講演の内容は参加者の記憶にほとんど残らず、困っていることは解決されない。参加者からは、講演の内容よりもいろいろな人と話せ、知り合いが増え、他職種と交流できたことが良かったとの感想が多かった。
・問題解決の新たな話し合い方法が必要と考えた。

背景２

- 地域の医療・ケアを良くするのに（知識や技術の向上以上に）多職種連携・顔の見える関係が大切

Masso M. Aust J Rural Health 2009／Kelley ML. J Plliat Care 2007／黒瀬正子. 看護 2007

- 顔の見える関係の概念的枠組み
  - 顔が分かる
  - 顔の向こう側（人となり）が分かる
  - 顔を通り越えて信頼できる

森田達也. Palliat Care Res 2012

- **顔だけでなく、考え方や人となりが分かるような、多職種で話し合う機会を構築することが、地域連携の促進に寄与**

従来の集まり・講演会は

を創るのには向いていない

講演会とケア・カフェの違い

従来の講演会	ケア・カフェ
✓ 情報は講師が握っている	✓ いろいろな情報が得られる
✓ 記憶に残らない	✓ 知識が身に付きやすい
✓ 質問がしずらい	✓ どんなことも聞ける
✓ 「今」困っていることは解決されない	✓ 「今」困っていることが解決される
✓ 会場の意見は反映されない	✓ 新たな発見が生まれる
✓ 横の繋がりはできない	✓ 顔の見える関係ができる

ジャズの流れるリラックスした雰囲気

コーヒーやスナック片手に

地域の医療介護福祉者が
- 顔の見える関係
- 困りごとの相談場所

を「創る」とりくみ

- 新しいアイデアが浮かぶ時はリラックスしている時、カフェにはそのような効用があり、オープンで自由、フェアな関係性での会話にこそ、実のある意見交換や新しい発想が生まれる。
- ケア・カフェアは、カフェのような雰囲気づくりが大切、１テーブル４名が基本の少人数のおしゃべり、話すテーマは方向性を誘導しない大きなテーマで、運営は「相互扶助」（ここが重要）、筆記具やスナック、コーヒーカップなどは持ち寄り、実行委員はいるが会場の準備や後片付けは参加者で、誰かの負担にしない、運営のマスター役も特定の人ではない、実行委員会もフラットな関係性で運営、経費は寄付で賄う。
- ケア・カフェは、問題解決の場であるために定期的に開催、できれば月１回または隔月が基本。
- 長く続けるコツは、其の一「相互扶助」～誰かの負担にしない。其の二「テーマ」～誰でも絡めるテーマ設定、専門性の高いものにしない、「問い」にしない。其の三「弱い紐帯」～弱い紐帯を強みにする。其の四「自由度」、其の五「敷居の低さ」の５点である。

ケア・カフェ®の開発

- 地域における医療介護福祉間の現場においてのバリアをなくし、顔の見える関係を創出するための方法論
- 論理基盤
  - 構造構成理論　西條剛央（2005）
  - 弱い紐帯論　Mark Granovetter（1973）
  - 贈与論　Marcel Mauss（1924）
  - 成人学習理論　Knowles, MS（1980）など
- 継承した方法論
  - ワールド・カフェ　Juanita Brown＆David Isaacs（1995）

結果

- ケア・カフェ®に参加することにより
  - 【地域の他職種の役割が分かる】
  - 【地域の関係者の名前と顔・考え方が分かる】

量

  - 顔の見える関係が作られる
    「肩肘をはらない関係を築けるという実感があります」
  - 人間関係が深まる
    「人間性などがわかり、信頼性強くなった気がします」
  - 職種によるヒエラルキーが払拭される
    「今までより連絡をとる時の敷居が低くなった」
    「他職種との関わりが気軽にできるようになった」

質

結果

- ケア・カフェ®に参加することにより
  - 【他職種で会ったり話し合ったりする機会】
  - 【地域の相談できるネットワーク】

  量

  - 他職種について理解が深まる
    「他職種が何に困っていて、どんな人なのか分かった」
  - 仕事に活かされる
    「誰に何を相談すべきかクリアになってきた」
    「何かあったときに相談できるようになった」
  - 社会関係資本の形成
    「人脈が増えた」「新たなネットワークができた」

  質

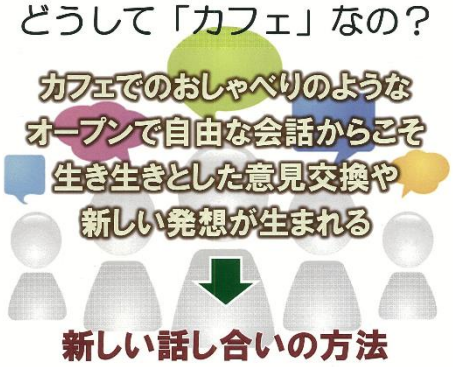
考察

- 得られているのは多職種の連携だけではない
  - 楽しさ、癒し、元気をもらって帰る
  - 思考の多様性、対話の重要性に気付く
  - コミュニケーションにおけるメタ視点の獲得
- 繋がる場所や機会を希求している社会
- 専門職間というよりも、人と人をつなぐしかけを作ることが地域連携促進の近道

弱い紐帯を強みにする

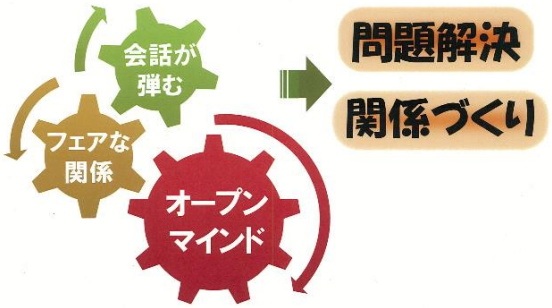
強い紐帯	弱い紐帯
・職能団体	・多職種の会
・会社内	・会社外
・家庭内	・知人
・親友	・知人の知人

どうして「カフェ」なの？

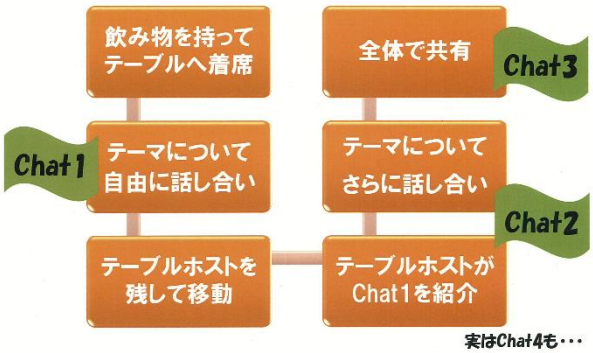


- 講演終了後、ケア・カフェあさひかわの白鳥洋平さん（介護福祉士）がカフェ・マスターを務め、実際にケア・カフェを体験しました。
- 白鳥さんからも再度ケア・カフェの効用と進め方などの説明があり、「自分の仕事、あなたの仕事」をテーマに、２７のグループに分かれて話し合い（おしゃべり？）ました。
- 参加者からは、いつもと異なるGWでしたが、非常に賑やかに話が弾み「楽しかった」との声が寄せられていました。（アンケートから）

「カフェ」の効用



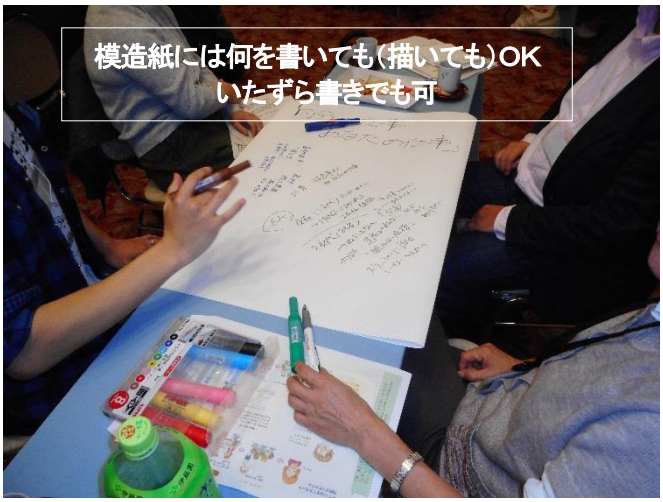
ケア&カフェ の進め方



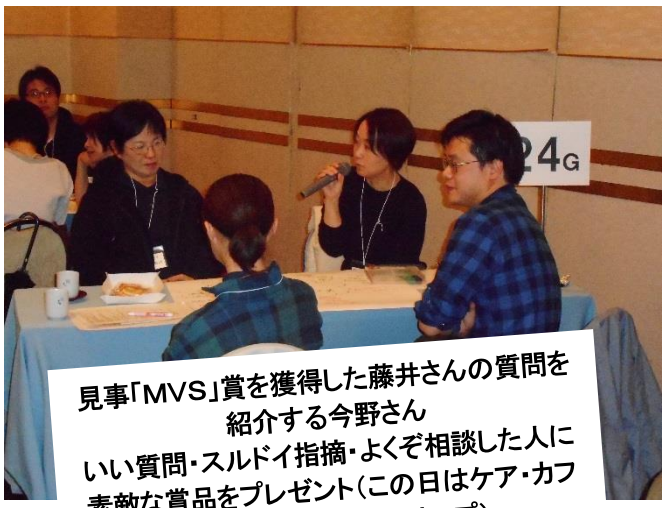
感想：時間があっという間に過ぎて楽しかった
知りたい情報も得られ良かったです

感想：様々な職種の方の様々な話を聞けて、
とても楽しかった

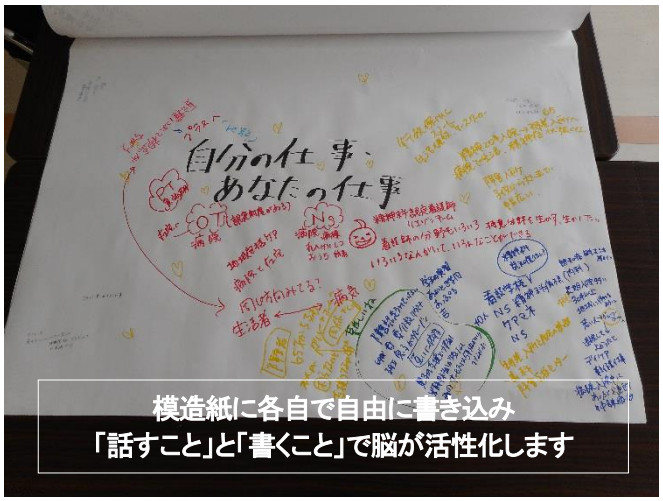
全体共有でインタビューするカフェ・マスターの白鳥さん



模造紙には何を書いても（描いても）OK
いたずら書きでも可



見事「MVS」賞を獲得した藤井さんの質問を
紹介する今野さん
いい質問・スルドイ指摘・よくぞ相談した人に
素敵な賞品をプレゼント（この日はケア・カフ
ェオリジナルコーヒーカップ）



模造紙に各自で自由に書き込み
「話すこと」と「書くこと」で脳が活性化します

最後に北空知介護支援専門員連絡協議会
副会長（歯科医）の中神さんから閉会の挨拶

・GWの最後に、白鳥マスターから、一番いい質問・相談をしたと思う方に「MVS（most valuable soudan/shitsumon）」賞が贈呈され、賑やかで楽しいケア・カフェ体験を終えました。

・この日の研修会には北海道歯科医師会の杉本さんが飛び入り参加、閉会の前に、在宅歯科医療連携室の「お口の相談」などの取組を紹介いただきました。

交流会（懇親会）

・引き続き行われた交流会には４６名が参加、飲みニケーション交歓で、多職種連携づくりがさらに深められました。
・コーディネーターは、北空知介護支援専門員連絡協議会事務局長の佐々木さんが務め、巧みな指名で、乾杯の挨拶は看護師の立花さんを、テーブルスピーチはケアマネ、医師、作業療法士、社会福祉士など様々職種を指名し話を盛り上げました。

交流会は自由に動けるように立食形式に、疲れた方にイスも用意しましたが、皆さん最後まで立って交流

講師の阿部先生、白鳥さんも引き続き参加し最後まで参加者と歓談。長時間ありがとうございました

コーディネーターの佐々木さん

突然指名したにも関わらず、皆さんからは楽しく面白い？スピーチが次々と聞かれました。

インタビューでは、ケア･カフェの運営に参加の意向を示してくれた方も、ご期待！

この後、意気投合したメンバーは2次会でさらに交流を深めたとのことです

・佐々木さんの突然のインタビューにも拘わらず、参加者からは、研修の感想をはじめ、ユーモアたっぷりの自己紹介や、他市でケア・カフェに参加していたお話、顔の見える関係づくりの大切さ、ケア・カフェの運営参加の表明？　今後の意気込みなど、様々なお話をいただき、和やかな中にも大いに盛り上がりました。
・結びの挨拶も打ち合せなく、保健師の米澤さんが指名され、一発締めでお開きとなりました。
・参加の皆さん、お疲れ様でした。またの再会を！